

---

## 開会挨拶

京都大学総長 松本 紘（生存圏研究所長 川井 秀一 代読）

---

ご紹介いただきました生存圏研究所長の川井でございます。

ただいま司会よりご案内がございましたように、松本 紘京都大学総長は残念ながら体調を崩され、本日は出席できません。「皆様によろしく」とのことで、総長のメッセージを私が代読をさせていただきますたく思います。

皆さんおはようございます。本来であれば京都大学総長としてシンポジウムに出席し、開会のごあいさつを申し上げる予定でしたが、体調不良のため欠席せざるを得ませんので、書面であいさつをさせていただきますたく思います。

京都大学は、研究大学としてその存在が知られ、これまで多方面にわたって研究実績を上げております。

このシンポジウムは、京都大学の先端的な研究活動を支える大きな力となっている22の研究所・センターが、その活動を社会に発信する目的で行っている催しでございます。「京都からの提言－21世紀の日本を考える」というタイトルで平成18年から続けているものです。

このシンポジウムは、京都というホームグラウンドを離れ、全国の主要都市を回って開催しておりますが、第1回目は東京にて開催、第2回目は大阪、3回目は横浜、4回目は名古屋にて行いました。

今回は、ここ九州の地、福岡においての開催といたしました。

このシンポジウムのシリーズは、開催の年ごとにサブテーマを決めており、今年は「グローバル社会に生きる－未来を見据える目－」をサブテーマとしています。

九州という土地は、古来より外国に開かれた地として大陸との窓口機能を果たしてきた、日本におけるグローバル地域の代表でございます。また、京都大学にとっても、九州には数多くの附属施設があり、また、九州の大学、研究機関とも日ごろからともに密接な研究交流を進めているなど、いろいろとご縁がある土地でございます。

本日は、会場にお越しくございました皆様方と一緒に、グローバル化時代にどう生きるのか、また、グローバル化とはどういうものなのかを考えるとともに、その対極にあるローカルの意義についてもあわせて検討し、地球の未来、世界の未来、日本の未来、そして、この九州地域の未来をみつめるきっかけを提供できればと願っております。

情報技術や交通システム、経済システムの著しい発展により、国境を越えた交流が進んでいます。いわゆる世界のグローバル化が急速に進んでいるわけです。相互の直接交流が容易になり、世界の隅々で起こったことをほとんどリアルタイムで知ることができるなど、どんどん便利で効率的な社会になっています。

一方、サブプライムローン問題に端を発した経済危機がまたたく間に広がり、日本も大きな影響をこうむり、いまだ確実な回復の兆しは立っていません。あえいでいる状態にあります。環境・エネルギー問題も一国では処理できない問題であり、全世界が共同で取り組むべき道を模索しております。

このように全世界的な視点から、多様な国や地域を巻き込んで対応しなければならないグローバル社会が現実となっているわけです。

他方で、地域固有の多様な社会、文化、また生態系などが失われるという危機にも直面しております。グローバル社会だからこそ、逆にどのように地域性や多様性を生かしていくのかが大きな課題となってきているわけです。このシンポジウムが、グローバル社会に生きる私たちにとって、一方ではローカルな視点と挑戦力も高めていく必要があることについて、皆様とともに考える機会となればと思っております。

また、京都大学も、京都の地にあるだけでなく、これからの社会において、いろいろな土地に直接出向いて市民の方々に直接語りかけるということが大変重要なのではないかと思っております。

先ほども少し話をさせていただきましたが、京都大学は、知の伝承とともに、知の創造に携わる研究大学であることが強みでもあり、京都大学附置研究所・研究センターのシンポジウムは先端的な研究活動の重要な部分を担っている研究所や研究センターがまとまって主催しているものでございます。

京都大学は、京都という独特な環境、文化を持つ地域において、従来の価値体系にとらわれない自由な研究、権力におもねることのない自立した研究をはぐくんでまいりました。その結果、これまでに京都の地から世界に数多くの重要な研究成果を発信してきています。

このシンポジウムのもう1つの目的としては、このような伝統と特長を持つ京都大学が取り組んでいる基礎研究や先端的な学術研究の成果の一部を皆様にご紹介したいという思いがございます。

今日ここにお集まりいただいた皆様に感謝申し上げるとともに、このシンポジウムが九州福岡の地に幾ばくかの貢献をする機会となればと願っております。

また、最後になりましたが、ご協力をいただいた読売新聞社様にお礼を申し述べたいと思います。本日は、お越しいただき、まことにありがとうございました。

京都大学総長 松本 紘

代読 川井 秀一

どうもありがとうございました。(拍手)